

努力と差別

小五

ぼくは、休日にインターネットで配信されている動画やテレビの番組、ニュースなどをよく見ます。そうしているとき、ときどき事故で体を負ってしまうし、不自由になってしまったり、人を見かけます。ぼくの身の回りではそういういた人をあまり見たことはありません。ですから、その人の気持ちを知ることができないのかと思ったときもありました。

でもある日、またテレビで体が不自由になってしまった人を見かけたとき、いっしょに見ていた母が、「大変でしょうけれど、がんばってい

るのはすごいね。」

と言いました。ぼくは、その言葉で体が不自由でもあきらめない努力に気がつかされました。世界にはそんな中でギネス記録を出しているすごい人がいることも知りました。あきらめずにがんばるのはとてもむずかしいことなので、すごいという気持ちでいっぱいです。また、もう一つ気付いたこともありました。それは、努力をしている人だけでなく、周りの人が助けて応えんしていたということです。一人で乗りこえられないこともだれかと助け合えば乗りこえていけることを知り、改めてそのことについて考えることができました。

もし、ぼくの周りに不自由な人がいるならば、さっそく手助けをしたいと

思います。それは、人から感謝されるだけでなく、他の人のことを考えられるという自分の成長にもなるからです。仲を深めれば、おたがいを助け合うこともできます。

初めから体が不自由で産まれたときは、周りの人たちが本当に悲しんだことでしょう。それは、ぼくにも想像することができません。でも、産まれてくれたことだけでも、いっぱいの幸せになっっているのではないのでしょうか。ぼくはそう思います。

世界では、そういう人たちがたくさんそんな在しています。中にはそれを区別している人たちもいます。「ふつうはこうだろ。」や、「変なの。」などとひどいことを言っつけてきをつけているのなら、絶対にその考えはやめてほしいと思っ

ています。「こういうことがふつうだ。」と言う「ふつう」は、その人の育ったかん境によつてちがうし、考えもちがうのです。悪口によつて自分の常識で相手をしめつけてしまうことは、わざとではなくても心をいためつけてしまいます。いためつけられた人からするとすごく悲しい思いをします。ですから、悪口などを言っけていなくても、このことだけは知ってほしいと思っ

ています。ぼくは、だれもが平等で差別のない世界を夢見ています。今全ての人は話せなくとも、周りの人に努力の大切さや差別をやめようということを伝えていきたいです。これからもぼくは、幸せのあふれる世の中を作るため、毎日自分のできること、やるべきことを

やっ
てい
きた
い
と
思
っ
て
い
ま
す
。